



小網代通信

2017年9月号 VOL-231

発行：小網代ヨットクラブ

編集：広報委員会

編集長：里吉美恵子

〒238-0225

神奈川県三浦市三崎町小網代1385-18

Tel&Fax 046-804-5550

(上記電話番号は、現在工事中につき
つながりません。)

今月の内容

・連絡事項	編集委員	1ページ
・「海外クルージング “マーシャル諸島クルージング”」	浦野 俊一(飛車角)	2～5ページ

連絡事項 (編集委員)

1. < 8月行事報告 >

①=「子供会ヨット体験会」= 8月6日(日)3艇での実施を予定しておりましたが、当日キャンセル等で参加者3名に減ったため、3名をまとめて「衣笠」1艇でのヨット体験会となりました。小網代住区内の子供会の状況が開催当初から徐々に変化してきたということもあり、恒例としてきたこの行事も今回を機に終了することになりました。小網代住区との連携のありかたも改めて考える必要があるようです。



②=「夏祭り」= 8月19日(土)KYCメンバー、ゲスト合わせて32艇200名余の参加者がありました。8月に入ってから異常ともいえる長雨と肌寒い日々が続き、天候の予測がつかない中での開催でしたが、当日は開始時刻の11時頃になって、久しぶりにお日様が顔をのぞかせ、気温も上がり、冷たいものが消費される夏祭りらしい恵まれた日となりました。久しぶりに参加された艇もあり、軽やかな生バンドに合わせ何人かのクラブメンバーが次々と歌い始めましたが、何故か年齢に関係なく“若大将”の歌ばかり?とは不思議でした。また、KFR前期の表彰式があり、昨年に引き続き「KAMAKURAⅢ」が1位に輝きました。皆で作る夏祭り、最後まで片付け等お手伝いいただきました皆様、お疲れ様でした。



③=「熱海ランデブーレース」= 9月2～3日(土・日)の予定でしたが、台風15号の影響で熱海の泊地が利用できず、中止となりました。

2. < 11月 小網代カップレース “レース参加艇” と “レース運営スタッフ募集” >

11月3日(金)～4日(土)で開催されます。小網代ヨットクラブが公式レースのホストとなっている伝統のレースです。レースへの参加はもちろんですがレース運営スタッフも大募集中です。スタッフは個人の参加で大丈夫です。是非参加してみてください。詳しくは、ホームページ「レース」→「小網代カップレース」→「公示」を確認してください。問い合わせ先: koazirocup@gmail.com



【小網代ヨットクラブウェブサイト情報】 URL <http://koaziroyc.jp>

【次回予定 総務委員会 9月19日(火)18:30～21:00 駐健保会館4階会議室(JR田町駅より徒歩10分)】

プロローグ

43ftカタマランUminekoでの足掛け4年に渡る世界周航を終えてから早3年、美味しい酒と肴、そして温泉を求めて飛車角仲間と一昨年は瀬戸内／四国周遊、昨年は瀬戸内／九州周遊、、、楽しかった。島影もなく他船にも会わず数週間ただひたすら果てしない海と空、そして夜になると満天に煌めく星を眺め、全身で風と波を感じながら走り続けるのも素晴らしかった、でも毎晩港に寄り気の置けない仲間達と地の肴をつまみ杯を交わし、温泉で汗をながす、そんな航海の方が性に合っていると思い始めていた。

そんな時にFB仲間から57ftモノハルVelvet Moonで行くマーシャル諸島クルージングへの誘い、、、陽の力が強くなる、ラグーンが沈んだ藍色からタークォイズへ変わりだす、浜辺のホワイトサンドが輝き、パームツリーの緑の濃淡が増してくる、島の南端から伸びるリーフプリンジには貿易風で打ち寄せられるウネリが白く砕け波しぶきを吹き上げている、淡青のグラデュエーションの先は濃紺のインディアンオーシャン、忘れかけていたココスキーリング環礁の記憶が鮮烈に蘇る、、、行ってみよう、またサンゴ礁の美しい青い海を見に。

インド洋の真珠 ココスキーリング環礁(2012年9月 Umineko マストトップから)

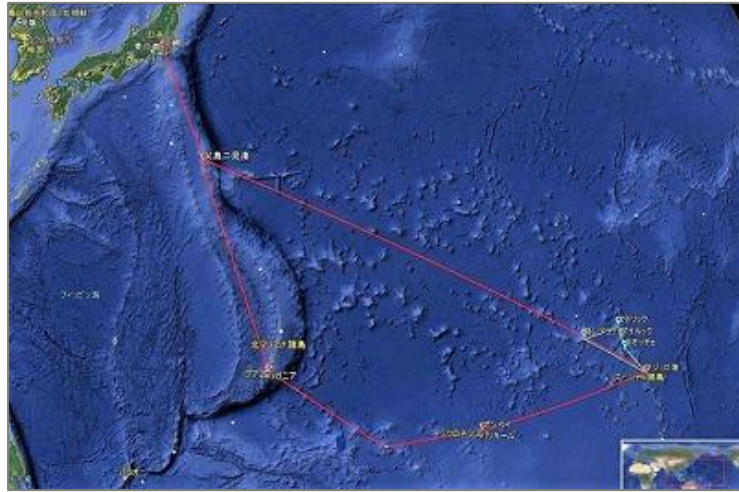


マーシャルサンゴ礁クルージング

飛車角春のクルージングと日程が重なり往路は乗らずマーシャルサンゴ礁巡りとポンペイ、チューク、グアムそして小笠原を経由する帰路に約2カ月乗艇することになった。

5月11日Velvet Moonは横須賀からマーシャルへ出航、そして6月1日に僕は成田から南の島へ飛び立った、マーシャルの首都マジュロへはグアムからチューク、ポンペイ、コスライ、クワジェリンとアイランドホッピングをしながら8時間、降り立つともう灼熱ヘヴン！

マーシャル諸島は日本から南東へ直線で約3000nm、大小の環礁が20余り、東西南北約300nmに散在し太平洋に浮かぶ「真珠の首飾り」と呼ばれている。僕らは首都のあるマジュロ環礁を起点にウォチェ、アイルック、ウトリック、ロンゲラップ等の幾つかの環礁を巡るクルージング、それからポンペイ、チューク、グアム、小笠原に寄って7月末帰国めどに心ゆくまでセーリングを楽しむ計画。



マジュロ環礁を出航すると15～20ノットの北東貿易風をアビームに受け東からの海流に押され9ノットほどで気持ちよく滑る、日が落ちるとポート船尾には水平線から南十字星が上がりケンタウルスが雄大な姿を見せている。世界周航で幾夜となく重ねてきたナイトワッチ、初めて南十字星に出会った夜、あまりの星々の多さに惑わされいつも見慣れた星座が見つけれなくなった時、天空を覆う天の川に驚嘆した瞬間が脳裏によぎる、、、僕はもう訪れることはないと思っていたサンゴ礁に向けてまた南の海をセーリングしている！

マジュロから約150マイルを20時間で走りウオッチェ環礁の集落沖のマーシャルブルーに染まるラグーンにアンカーを落とす、クルージング許可を取得しているので事前に連絡されておりメイヤー(村長)が栈橋で手を振っている。僕らは彼の知る限りヨットでこの環礁へきた初めての日本人、先の大戦の激戦地であったので何回か遺骨収集団が来ているがこの10年はそれも途絶えたとのこと。ギラつく太陽とムットする湿度で体感40℃超、それだけでクラクラする中を日本製トラックの荷台に乗って島内観光、村に入ると旧日本軍の建設した滑走路、緑に埋もれ廃墟となった無数の弾痕のある軍施設が点在する中で幾つかの建屋は村人達で利用されている、雑草に覆われた日本人墓地を抜け風上側の海岸に出るとトーチカ、内部には未だに“火気注意、弾庫”の文字がクッキリ、外部には砲弾痕が激戦を物語る。



熱中症気味で村に戻ると大きなパンの木の木陰にランチが用意され 30 人ほどの村人達が僕らを歓迎して集まっている。サラダ、チキン、グルーパー煮付け、パンの木の实、ポーボー(ココナッツ)ライス、パンダナス(タコの木の实)、そしてココナッツジュースが椰子の葉で編んだお皿にのせて供される、、、心づくしのローカルフード、美味しい！ やがて村人達の島唄、絶妙な混成ハーモニー、手を叩きリズムに合わせダンスが始まる。僕らも輪の中に入り心地よい海風を浴びながら手を組んで踊り、予期していなかった異文化体験に興じる。



村人達に見送られ次の目的地アイルックへ 100 マイルほどセーリング、環礁を出ると鳥山、すかさずルアーを流す。これまで二日続けて大物がヒットした、おとといは 10 分ほどファイトして 30kg までもつハリスが切れた、昨日はリグのドラッグが効かず瞬く間に 200m ほど持って行かれ堪え切れずにリールを巻くと 100kg リミットのラインがプツン、後方 100m ぐらいで 2m ほどのブルーマーリンが数回ジャンプ、デカすぎた！ 今日も 5 分もしないうちにロッドが大きくしなる、こんどはドラッグが効いている、緩めたり巻いたり 20 分ほど慎重にファイト、ようやく引き上げたのは 90cm, 10kg ほどの思ったより小さいキハダマグロ、、、僕がその場でおろし

翌日は握り寿司になってみんなの胃袋に納まった、、、うーん満足😊

そうこうしているうちにアイルック環礁へのチャンネルに到着。GPS プロッターではチャンネル入り口にいる、でも見えるのは黄緑のフリンジ水面とパールブルーのラグーンだけ、珍しく貿易風が弱まっているのでフリンジに打ち砕けるブレイカーも見えない。チャンネルは 2 マイルほど離れて 2 つあるはずなのだがどこだか見当がつかない！

サンゴ礁経験があるのは僕だけなのでナビゲーターを担当、とりあえずフリンジに沿って 1 マイルほど行くと青い水路らしき場所を見つけた、多分ここがチャートにある入り口、幸いまだ陽が落ちきらず後ろから受けているので浅瀬の様子ははっきり目視できる。視認できる幾つかの浅瀬を確認しながらチャートチェック、1 マイルほど慎重に走らせチャートが GPS ポジションに対し緯度で 0.8 マイルズれていることを確信、でも陽が浅くなり目視では深さが判断できなくなった。チャート上で座礁リスクのある浅瀬の補正位置を予測し一つ一つ避けながら 約 2 時間、村落にできるだけ近いコーラルの切れ目を見つけて投錨した頃には陽が沈み始めていた。

(日暮れにココナッツ集めを終え帰投するマーシャルカヌー)



エピローグ

サンゴ礁巡りを終え一旦マジュロに帰港、10日ぶりにメールをチェックすると92歳になる母が転倒して大腿骨骨折、救急車で運ばれ入院したとの一報、今後のこともあるので帰らざるを得ないと判断し悪名高きユナイテッド航空オフィスへ行ってフライト手配、僕のマーシャルクルージングが突然終わった。

グアムまで4島経由で週3便あるがスルーで取れたのはなんと1週間後、Velvet Moonは翌々日にはマイクロネシアに向け出航、しかも大きなイベントがありホテルはどこも満杯、、、☹️仕方なくバックパッカー御用達安宿で悪臭と騒音、狭いベッドで蠢く虫達と5晩過ごしてようやく機上の人となれた。直線距離ならたったの3000マイル、でもグアム泊で成田へ30時間超、、、、マーシャルは遠い！！

最後に人間模様

クルーは全員自艇所有一国一城の主ばかり、平均年齢ほぼ70歳、人の言う事を聞かず、勝手なことばかり言ってるおっさん達、あちこち痛い、痒い等と不調を抱え数種類の薬を服用しながらもワッチをこなし、食事当番をこなし、荒海の中、きついパンチングも、ローリングもピッチングもこらえ、雨に耐え、雷におびえ、夕陽や満天の星に感涙。

髪が薄くなって光ってるだけでなく、間違いなくオールドセーラーとして輝いていた！

ボン オヤ〜〜ジ😊